

第3次小平市子ども読書活動推進計画

— 子どもが本と出会うために —

【平成29年度進捗状況】

平成30年9月
小平市教育委員会

目次

第1 未就学児に対する取組

- 1 継続的な取組 . . . 1
- 2 新たな取組 . . . 5

第2 小学校・中学校・高等学校に対する取組

- 1 継続的な取組
 - (1) 小・中学校における読書活動の推進 . . . 6
 - (2) 図書館における読書活動の推進 . . . 8
- 2 新たな取組 . . . 10
- 3 その他 . . . 11

【第3次小平市子ども読書活動推進計画】平成29年度 進捗状況調査報告書

第1 未就学児に対する取組

1 継続的な取組

	施策項目	所管課	計画当初 (※)	計画最終年度 (※)	具体的な取組	平成29年度実績	事業実績に対する評価等
1	乳幼児向けの絵本リストの配布 および図書館案内	健康推進課	継続		・3～4 か月児健診時、図書館コーナーの設置	・年間で24回、3～4 か月児健康診査時に図書館コーナーを設置し、受診者1,507人に赤ちゃん絵本リスト、図書館案内、図書館利用者登録申込書を配布した。 ・待ち時間(約10分)を利用し、図書館職員が利用案内、絵本紹介などを行った。	子育てに図書館を利用するきっかけづくり、また絵本を活用した子育て促進の場として充実を図った。
		図書館			・3～4 か月児健診時、会場に設置された図書館コーナーにて保護者に向けての絵本リスト等の配布	・年間24回、図書館職員が受診者(経過観察健診対象者を含む)1,546人に絵本リストを配布した。また、待ち時間を利用し、図書館利用案内、絵本紹介等を行った。 ・平成30年度から開始予定のブックスタート事業実施に向け、読み聞かせをするボランティアを募集したうえで育成講座を行った。	・子どもと絵本との出会いの場であると同時に、保護者にとって自分の子どものために絵本を選ぶことの大切さを伝える場となっている。また、これをきっかけに、図書館利用(利用登録、「絵本のへや」への参加等)にもつながっている。 ・ブックスタート実施に向けて応募のあったボランティアは募集人数を大きく上回った。ボランティアの育成講座を始めとした、実施に向けた準備を順調に進めることができた。
2	図書館における行事の定期的な開催	図書館	継続		・全館で「おはなし会」、「絵本のへや」を定期的開催。また、それぞれの地区館で独自のおはなし会を開催	・定例のおはなし会【全館】 参加：4歳児から1年生の部：186回(1,446人参加)小学生の部：186回(644人参加)4歳児から小学生の部【仲町図書館のみ】：24回(101人参加) ・日曜日のおはなし会	近年、平日に開催している定例のおはなし会の参加が減少傾向にあるため、土日・祝日開催の定例化を視野に、日時の検討を行っていく必要がある。

					<p>小川西町図書館（2回）参加：19名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よるのおはなし会」（夏の季節に合わせた少し怖い内容のおはなし会） <p>中央図書館 123名、仲町図書館 68名、花小金井図書館 32名、小川西町図書館 42名、喜平図書館 100名、上宿図書館 61名、津田図書館 59名、大沼図書館 45名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絵本のへや」（0歳児からの子どもと保護者を対象とした絵本の読み聞かせや手遊び、わらべうた等）【全館】 <p>参加：延べ96回1,630人の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月23日の「子ども読書の日」に合わせて4月1日から5月17日を「こだいら子ども読書月間」とし、全館で絵本の展示やおはなし会等子どもと本を結ぶ行事を開催した。 ・児童書展示コーナーにおいては、季節に応じた図書の展示を行った。 	
3	「家庭教育講座」実施による家庭での読書の推進	公民館	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館員を講師とした、子どもの読書に関わる内容の講座の実施 	<p>【津田公民館】</p> <p>家庭教育講座「自分らしく、楽しく子育て」の中で「お気に入りの絵本を見つけよう！」実施。受講：10人</p> <p>【大沼公民館】</p> <p>家庭教育講座「新米ママのハッピー子育て」の中で「初めての絵本選び」実施。受講：12組24人</p>	絵本の選び方・楽しみ方を学ぶことで、子どもが絵本に興味を持つきっかけをつくとともに、子どもの成長に絵本とのふれあいが、非常に重要であることを学ぶ機会となった。
		図書館		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館主催の「家庭教育講座」の「子どもへの読み聞かせ」に関わる講座において、講師として参加 	公民館主催の子育てに関する講座で、図書館職員が読み聞かせに関する講座の講師を務めた。	子育て中の保護者に役立つ絵本の情報が提供できたため好評であった。
4	児童館における図書の充実	子育て支援課	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・図書コーナーの設置 ・児童館職員またはボランティアによる「絵本のへや」、「かみしばい」の定期的な開催 	<p>児童図書の整備については、充実、向上に努めた。</p> <p>【花小金井南児童館】</p> <p>「絵本のへや」12回、「かみしばい」12回、「子どもといっしょに楽しむおはなし会」</p> <p>【小川町二丁目児童館】</p> <p>「絵本のへや」12回</p> <p>【小川町一丁目児童館】</p> <p>「わらべうたとお話の会」19回、「かみしばい」11回</p>	子ども達に好評なため、子ども達の希望をもとに、図書の充実を図ったが、担い手であるボランティアの確保が課題となっている。

5	「子ども家庭支援センター事業」との連携	子育て支援課	継続	・「子育てガイド」の発行、図書館行事の掲載	図書館案内を掲載した「子育てガイド」を8,500部発行し、図書館の、子育て世代の利用者の目に触れる場所に設置した。また、平成29年度から転入してきた子育て家庭（手当等手続き時）に配布した。	母子手帳配布時や子育て中の保護者の目に触れるよう、各公共施設等に配布したことで、図書館の情報を発信することができた。今後も継続して実施し、情報提供していく。
		図書館		・子育て支援課発行の、子育てに関するガイドブックの受入れ	図書館情報も掲載した「子育てガイド」、「子育て相談ガイドブック」を図書館資料として受入れ、子育て関連コーナーや地域資料コーナーの書架に入れている。	今後も相互協力を行い、それぞれの情報が子育て世代の家庭に届けられるよう努める。
6	幼稚園の図書館見学	図書館	継続	・地域の幼稚園の図書館見学受入れ	市内幼稚園の図書館見学を中央図書館で1園（55名）を受け入れた。館内の見学の他、児童コーナーの絵本の探し方や利用の際の注意点を伝えるなど、子どもたちの今後の図書館利用に役立つような内容を伝えた。	図書館見学では、普段は入れない場所に案内するなど、子どもたちの興味を引くものが多く、図書館の面白さを直接伝えることができた。
7	保育園における読書活動の推進	保育課	継続	・全市立保育園における定期的な「おはなし会」、絵本の読み聞かせの開催。 ・「いとぐるま」（小平市子ども文庫連絡協議会）によるおはなし会の開催	・保育士が子どもたちに日々読み聞かせを行っている。 ・市内全市立保育園で、月1回程度「いとぐるま」による「おはなし会」を行っている。 ・「今日の絵本」コーナーなどで情報発信をしている。	読み聞かせやボランティアによる「おはなし会」は、園児や保護者から大変好評であり、子どもたちが絵本とふれあうよい機会となっているため、引き続き取り組んでいきたい。
8	幼稚園における読書活動の推進	図書館	継続	・保護者向けの読み聞かせや絵本選びに関する講座の実施	・スペシャルおはなし会の際には、各館で近くの幼稚園に対し、参加のための広報を行った。	市内各図書館から各地域の幼稚園に対し、図書館利用の促進を行っていく。
9	児童文学講演会の開催	図書館	継続	・絵本や児童文学の素晴らしさを伝えるため、大人向けに作家や専門家等の講演会等を開催	・講演会「赤ちゃん絵本 ～親子のふれあいから地域の子育て支援へ～」の開催 次年度から実施予定のブックスタート事業の関連事業として、全国のブックスタート事業を支援する団体NPOブックスタートの理事である佐々木宏子氏により、赤ちゃん絵本の関わりや影響についての内容の講演会を開催した。参加：47名 ・講演会「子どもたちに声の文化を！ ～乳幼児の成長とわらべうた～」の開催 わらべうたを通して、肉声でふれあうことの大切さを、実践を交えて語る講演会を、親子への読み聞かせに関わる活動をしている落合美知子氏を講師に、小平市子ども文庫連絡協議会と共同で開催した。参加：59名	・次年度から実施予定のブックスタート事業の対象者である乳児に対する絵本の影響がよく伝えられた内容の講演会であった。 ・わらべうたの講演会については、改めてわらべうたの心地よさや肉声の優しさを感じたという参加者が多く、図書館で乳幼児向けに開催している「絵本のへや」においてそれらを取り入れることの必要性について改めて認識した。

10	特別な支援を必要とする子どもへの支援	図書館	継続	充実	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚に障がいのある子どもや日本語を日常語としない子どもに対する絵本の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンディキャップサービスの中心館である小川西町図書館から、障がいのある子どもがいる市内の団体に対し、布の遊具、絵本の貸出を行った。 貸出件数：30件 貸出点数：141点 また、「こだいら子ども読書月間」や「障害者週間展示」の中で、布の遊具や絵本を使用した行事や展示を行い、利用の促進を行った。 ・4月の「発達障害啓発週間関連展示」、11月の「障害者週間特別展示」で、マルチメディアデイジー図書の展示と視聴コーナーを設置し、利用対象の子どもやまわりの大人たちに対しPRを行った。 ・外国語を日常語とする子どもたちに向け、外国語絵本を収集した。また、絵本の言語がわかりやすいよう書架の案内表示を改善した。 	<p>活字による読書が困難な子どもたちに、それぞれの子どもに合った様々な読書の方法があることをPRし、それらを活用してもらうことができた。今後も継続して活用してもらえるよう、展示や行事等を通じ、子どもやまわりの大人へのPRに努める。</p>
----	--------------------	-----	----	----	---	--	--

※ 継続（計画当初、計画最終年度）：第2次計画の成果を踏まえ、継続的に推進していく取組

※ 継続（計画当初）→充実（計画最終年度）：第2次計画に引き続き継続し、さらに新たな取組を実施、充実を図る。

※ 検討（計画当初）→実施（計画最終年度）：第3次計画において新たに検討し実施する取組

2 新たな取組

	施策項目	所管課	計画当初 (※)	計画最終年度 (※)	具体的な取組	平成 29 年度実績	事業実績に対する評価等
1	おはなし室の開放	図書館	検討	実施	・乳幼児を持つ保護者が、子どもとともに絵本とふれあいながら図書館で過ごすことができるよう、おすすめの絵本を揃えておはなし室を開放	・乳幼児とその保護者の参加する「絵本のへや」の終了後、おはなし室を開放し、親子で絵本を楽しむ場の提供を行った。 ・子育て中の保護者に自分自身の読書の時間を確保してもらうため、休館日に「図書館親子スペシャルデー」を、託児付きで開催した。場所の開放と共に保護者に対する図書館利用の支援を行った。(図書館案内、大人向けの読み聞かせの会、おすすめの絵本の紹介、自由時間等) 中央図書館 参加：29 名 (14 家族) (大人 14 名、子ども 15 名) 小川西町図書館 参加：16 名 (7 家族) (大人 7 名、子ども 9 名)	・「おはなし室の開放」の利用者は、「絵本のへや」参加の親子が大半である。今後は気軽におはなし室が利用できるよう利用者の意見等を取り入れながら、周知方法について検討していく。 ・「図書館 親子スペシャルデー」については、平成 27 年度に中央図書館で開始しているが、来館時に子どもが騒いでもまわりの目を気にすることなく保護者自身の読書の時間がとれることから大変好評である。3 年目の平成 29 年度は 2 館で開催した。
2	来館できない子どもと保護者へのサービス	図書館	検討	実施	・行事開催日の検討 働く保護者のいる子ども等、平日昼間の来館が困難な利用者のため、土日・祝日等、日程を幅広く設定	・平日昼間の来館が困難な親子向けに、小川西町図書館では、日曜日に親子で参加できるおはなし会を 2 回開催。参加：19 名 ・「こだいら子ども読書月間」において、中央図書館で「土曜日の『絵本のへや』」(参加：34 名)、喜平図書館で「きへいとしょかん親子で楽しむおはなし会」(参加：18 名)を開催。	働く保護者が平日は子どもと一緒に図書館の利用ができないため、土日の開催については、満足した参加者が多かった。平日に開催している定例のおはなし会についても、多くの子どもたちが来館しやすいよう土日・祝日の開催を検討していく。
					・地域への出張サービス (アウトリーチ) 事情により外出や図書館利用が困難な子どもがいる施設等に図書館員が出向き、おはなし会等のサービスができるよう検討	出張先について検討を行った。	
3	リサイクル本の提供	図書館	検討	実施	・リサイクル本を、市内の保育園等に提供	市内全公立保育園に対し、154 冊提供した。	保育園の要望に応えるとともに、リサイクル本の有効活用ができた。
4	広報の工夫	図書館	検討	実施	・図書館行事や子どものおすすめ本、図書館案内等の情報について、関係各課を通じて各施設等への協力を求め、地域により情報入手に差が出ないような効果的な広報活動を実施	子どもが常にいる場所である学校にチラシやポスターの掲示協力を求め、情報が確実に届くように努めた。	子ども自身よりむしろ保護者への広報が効果的な場合もあり、保護者に向けた情報提供の仕方も引き続き検討していく。

※ 継続 (計画当初、計画最終年度) : 第 2 次計画の成果を踏まえ、継続的に推進していく取組

※ 継続 (計画当初) → 充実 (計画最終年度) : 第 2 次計画に引き続き継続し、さらに新たな取組を実施、充実を図る。

※ 検討 (計画当初) → 実施 (計画最終年度) : 第 3 次計画において新たに検討し実施する取組

第2 小学校・中学校・高等学校に対する取組

1 継続的な取組

(1) 小・中学校における読書活動の推進

	施策項目	所管課	計画当初 (※)	計画最終年度 (※)	具体的な取組	平成29年度実績	事業実績に対する評価等
1	学校図書館活用年間計画の作成と実施	指導課・学校		継続	・各校の実態に即した読書活動推進に関わる計画を作成し、図書館利用の促進、読書時間の確保等の実施	・全ての小・中学校が読書活動に関わる全体計画及び年間指導計画を作成し、教育課程の届出の際に指導課に提出した。 ・各教科等の授業において、学校図書館の利用の促進と読書活動の時間の確保を行った。	・全体計画と年間指導計画の内容について適切な実施を継続して行う。 ・各教科等の授業において、年間指導計画に沿った学校図書館の活用と読書活動の時間の確保について、継続して行う。
2	学習情報センター機能の充実	学校(指導課)		継続	・子どもの問題解決のための、学校図書館における学習情報センター機能の充実	学校図書館司書教諭等連絡協議会において、学校図書館の機能の理解・啓発を継続して行った。	学習情報センター機能の充実を図るため、今後も継続して行う。
3	学校図書館システムの整備	学務課		継続	・学校図書館システムの整備 ・情報資源にアクセスできる環境の整備	・貸出、返却、蔵書点検などを行えるシステムの整備をし、システムを活用して図書の出借等を行った。 ・「学校図書館システムマニュアル」を活用して児童・生徒の登録などの各種業務を行った。	引き続き「学校図書館システムマニュアル」を活用して児童・生徒の登録などの各種業務や学校図書館での貸出等を行っていく。
		図書館			・学校図書館システムの環境整備と、活用のための支援	学校連携推進館である仲町図書館に配置されている学校図書館相談員によりシステム操作関連の相談等を行っている。	システム操作は図書館、パソコンに関することは学務課というように対応する窓口は異なるが、問題発生時には、いずれの場合も速やかに対応できるよう連携を強化する必要がある。
4	市立図書館資料の活用	学校(指導課)		継続	・図書館の調べ学習用図書の貸出(特別団体貸出)、学期ごとの学級文庫用の図書貸出(団体貸出)とその配送サービスの活用	図書館が所蔵する資料等を借用し、調べ学習等の授業において活用した。	今後も活用していく。
		図書館				・調べ学習用図書の貸出： 小学校 16,980冊 中学校 1,376冊 ・学級文庫への貸出： 小・中学校 17校 10,878冊	今後とも調べ学習用図書の充実を図っていくとともに、授業に役立つよう学校からの依頼に応じていく。
5	図書の購入方針・廃棄基準の整備	学務課・学校		継続	・学校ごとの購入方針 ・廃棄基準整備、蔵書の整備	・国基準の達成に向けて、各学校の蔵書率に応じて予算を令達した。 ・国基準の達成に向けて学校ごとに計画的	今後も継続して行い、学校図書の充実に努める。

						に図書を購入するとともに、廃棄基準については全国学校図書協議会で作成している『廃棄基準』をもとに各学校に基準の整備を働きかけた。	
6	司書教諭の資質向上	指導課・学校	継続	充実	・各学校との情報交換及び司書教諭の指導力の向上	年3回、学校図書館司書教諭等連絡協議会を実施し、学校図書館協力員とも連携して取り組んだ。	年3回の連絡協議会において、他校や他自治体の取組を参考にして自校の取組を改善するなど、司書教諭の資質は向上した。今後も継続して行い、学校図書の充実を図る。
7	啓発・広報の充実	指導課・学校	継続		・読書週間の活用、図書館だよりの発行等	各学校では、毎年、年度当初や読書旬間に図書館だよりを継続して発行している。	今後も、読書に関心を深めるような広報を継続して実施する。
8	児童・生徒の主体的な読書活動の充実	指導課・学校	継続		・児童・生徒自身による主体的な読書活動の活発化	小・中連携教育のこだいら共通プログラムの学力の取組として、読書習慣の定着のみならず、言語活動を一層充実させた取組として、発信する力の育成を図るために「ビブリオバトル」を行った学校もあった。	今後も、図書委員会による読書集会、おすすめ本の紹介ポスターづくり、ビブリオバトルなど、読書習慣にとどまらない発信する力の育成を目指す。
9	放課後子ども教室における読書活動の推進	地域学習支援課	継続		・放課後子ども教室における、紙芝居、読み聞かせ等の実施	市内小学校全校で実施している放課後子ども教室において、紙芝居・読み聞かせ等の教室を11校で開催した。	今後も放課後子ども教室の事業継続を図り、子どもの読書活動につなげていく。
10	学童クラブにおける図書の充実	子育て支援課	継続		・図書館からの定期的な貸出等による図書コーナーの充実	新たに788冊（うちマンガ本493冊）を購入し、充実に努めた。	今後も図書コーナーの充実に継続実施する。
11	特別な支援を必要とする子どもへの読書活動の支援	指導課・学校	継続		・特別支援学級に在籍する子どもへの読書環境の整備、個々の障がいに応じた読書推進プログラムの開発と実施	個別の実態に応じた図書を、図書館と連携して準備・活用した。	今後も図書館と連携し、充実に努める。
		図書館				市内の特別支援学級のある中学校及び特別支援学校に対し、マルチメディアデジタル図書や布の絵本、LLブック等の紹介を行った。	子どもたちが個々の状態に合わせて読書が楽しめるよう様々な読書方法を紹介した。今後も支援を必要としている子どもたちに情報が届くよう努めていく。

※ 継続（計画当初、計画最終年度）：第2次計画の成果を踏まえ、継続的に推進していく取組

※ 継続（計画当初）→充実（計画最終年度）：第2次計画に引き続き継続し、さらに新たな取組を実施、充実を図る。

※ 検討（計画当初）→実施（計画最終年度）：第3次計画において新たに検討し実施する取組

(2) 図書館における読書活動の推進

	施策項目	所管課	計画当初	計画最終年度	具体的な取組	平成 29 年度実績	事業実績に対する評価等
			(※)	(※)			
1	小・中学校における学校図書館システムの活用支援	図書館	継続		・学校図書館における貸出・返却、蔵書管理等を行うためのシステム操作に関わる支援	・学校連携推進館である仲町図書館に配置されている学校図書館相談員がシステム操作関連の相談業務等を行った。 ・蔵書点検を実施する学校に対しては、職員等が出向いて支援を行った。	今後もシステムが円滑に活用されるよう継続して支援を行う。
2	小・中学校向けの「夏休みおすすめ本リスト」の作成・全校配布	図書館	継続		・図書館職員が選んだ、夏休みに子どもたちに読んでほしい本の紹介リストを作成し、市内小・中学校に配布。また、夏休み期間に全館でおすすめ本とリストを別置	小学校低学年、中学年、高学年用に各 16 冊、中学生用に 36 冊を紹介したリストを公立小・中学校の子どもたち全員に配布するとともに、図書館に別置コーナーを設けた。 別置冊数：小学生 1,394 冊、中学生 544 冊	楽しく読める良質な本を紹介しており、毎年夏休み早々に来館する子どもたちが多く、有効利用されている。
3	小学生から高校生向けの参加型図書館行事の開催	図書館	継続	充実	・図書館を使いこなし、利用を楽しんでもらうために高校生以上に向け企画した「大人のための図書館探検ツアー」、図書館の裏方の仕事をしてもらう「バックヤード体験講座」等の開催	・「大人のための図書館探検ツアー」（18 歳以上）参加：1 名 ・「高校生の『仕事体験講座』」参加：4 名	図書館の裏側の仕事を体験したり見学する行事は、参加者にとっても好評であり、今後も内容とともに広報に工夫しながら継続していく。
4	小・中学校に向けた調べ学習用図書の貸出（特別団体貸出）と配送サービス	図書館	継続		・授業で使用する調べ学習用図書について、テーマに沿った図書の選本と貸出、また、その配送・集配サービスの実施	・調べ学習図書の貸出： 小学校 16,980 冊 中学校 1,376 冊 ・学級文庫への貸出： 小・中学校 17 校 10,878 冊	今後も調べ学習用図書の充実を図っていくとともに、授業に役立つよう学校からの依頼に応じていく。
5	小・中学校に対する学校図書館協力員の配置・研修	図書館	継続	充実	・市内全小・中学校に学校図書館協力員を継続して配置し、図書館職員による研修を実施	年に 6 回、情報交換会を含めた研修を実施した。内容は、学校図書館システム操作、資料紹介、レファレンス演習等。	その年の状況に合わせて、また各学校における課題に応じられるような研修内容を取り入れていく。
6	読み聞かせに関する講座の実施	地域学習支援課	継続		・「小平地域教育サポート・ネット事業」における学校支援ボランティア対象の研修等にて図書館員を講師とした講座等を実施	学校図書館ボランティアの養成等を目的とする講座を、17 校で 22 講座実施した。また、学校図書館ボランティアの研修・交流会を 2 回開催し、スキルアップや情報交換の機会とした。	今後も継続を図り、子どもの読書環境の充実につなげていく。
		公民館			・子どもの読書に関わる講座を実施	【上水南公民館】 家庭教育講座「ママからわが子へ贈ろうオリジナル絵本」の中で、世界でひとつしかない手づくりの絵本を作り、互いに読み聞かせを行った。受講：11 人 【鈴木公民館】 ジュニア講座「絵本に出てくる料理を作ろ	

					う」の中で、地域のボランティアの協力を得て絵本の読み聞かせを行った。受講：12組 26人	
		図書館		・図書館員を講師とした読み聞かせの講座や絵本の紹介等	学校や地域で子どもたちに読み聞かせの機会のあるボランティア等を対象に「絵本の読み聞かせ実践講座」を開催した。全3回 参加：延べ44名	読み聞かせの実践の他、絵本に関する歴史等、予備知識的な講義も交え、充実した内容となっており、毎年好評な講座として継続している。
7	中学生の職場体験、大学生のインターンシップや実習生の受入れ	学校・図書館	継続	・図書館の様々な業務を体験してもらう中学生の職場体験の受入れ ・司書資格修得を目指す大学生の実習等の受入れ	職場体験として市内中学校延べ21校 61名、高校生の校外活動として市内高校1名、大学生のインターンシップ2名を受け入れた。	今後もキャリア教育の一環として、さらに図書館サービスへの理解を深める機会を提供するため、受入れを行う。
8	市内小・中学校におけるブックトークの実施	学校・図書館	継続	・学校からの依頼により、図書館職員が授業や全校集会においてブックトークを実施	小・中学校延べ10校からの依頼により、図書館職員が各学校に出向き、それぞれの授業のテーマにあったブックトークを行った。	図書館に依頼を行わなくても対応できるよう学校に対するブックトーク等の研修を検討していく。
9	小平市子ども文庫連絡協議会への支援	図書館	継続	・地域で子どもの読書活動推進のための活動を行う小平市子ども文庫連絡協議会に対する、補助金交付や活動場所の提供等による支援	補助金交付、協議会の活動場所の提供だけでなく、講演会、講座の開催について、図書館と共催で実施することにより会場提供等を行った。	図書館が支援を行う一方で、協議会による図書館行事への協力も多い。今後も相互協力していく。

※継続（計画当初、計画最終年度）：第2次計画の成果を踏まえ、継続的に推進していく取組

※継続（計画当初）→充実（計画最終年度）：第2次計画に引き続き継続し、さらに新たな取組を実施、充実を図る。

※検討（計画当初）→実施（計画最終年度）：第3次計画において新たに検討し実施する取組

2 新たな取組

	施策項目	所管課	計画当初(※)	計画最終年度(※)	具体的な取組	平成 29 年度実績	事業実績に対する評価等
1	学校図書館対象の講座・研修の開催	図書館	検討	実施	・学校側におけるブックトークや読み聞かせ等の実施のための、学校図書館協力員・司書教諭等を対象とした講座や研修の開催	学校から図書館へのブックトークの依頼は毎年多いが、常に図書館に依頼するのではなく、学校側でも実施できるよう研修等を検討した。また、学校図書館協力員に、必要な研修内容について調査した。	研修内容の調査結果や日頃の学校からの依頼内容をもとに、今後の研修内容を検討していく。
2	新仲町公民館・図書館[なかまちテラス]における学校連携事業	学校・図書館	検討	実施	・「学校連携推進館」と位置付けられている「なかまちテラス」における、学校図書館との連携推進事業機能の充実	市内小・中学校の授業支援だけでなく、市内の高等学校とも連携して事業を行った。毎年開催している「なかまちテラスまつり」における「なかまち de ビブリオバトル」では、5名の高校生が参加した。	今後も学校連携推進館としての事業や取組を推進していく。
3	小学校入学時における図書館案内	学校・図書館	検討	実施	・すべての新1年生に対して、入学時に学校を通じた子ども用図書館案内を配布	夏休みおすすめ本リスト配布時に、1年生に対して利用登録申込書を配布した。	すべての子どもたちにもれなく情報が届けられるよう学校の協力を求めている。
4	レファレンスの充実	図書館	検討	実施	・子どもたちの調べ学習に役立つようなレファレンス回答例や本の調べ方の例などを各館で共有	夏休みに、調べ学習や夏休みの宿題等、子どもたちが必要としている学習支援を強化するため、レファレンスに特化した「夏休み宿題おうえん！調べ方教室」を実施した。参加：延べ10人	子どもの図書館活用の支援となるよう継続的に実施していく。
5	情報リテラシーの支援	図書館	検討	実施	・中学生、高校生等が求める資料、情報を的確に提供するため、レファレンスサービスの充実とともに情報活用の支援を実施	「高校生の『仕事体験講座』」の中で、中央図書館の参考資料を活用して問題解決を行うレファレンス体験を取り入れた。	中学生・高校生が活用するための問題解決方法について、情報提供ができるよう努めている。
6	中学生・高校生に向けた取組の充実	図書館	検討	実施	中学生以上を対象とした事業実施の検討	中学生以上の子どもたちに関心の高い内容を検証した。	・小学生のときにおはなし会に参加していた子どもが、中学生になってからも継続して図書館を楽しめるような事業を検討していく。 ・高校生については、市外在住でも「在学」の資格で利用登録ができるという図書館利用に関する情報提供の仕方を、検討していく。 ・「高校生の『仕事体験講座』」は、図書の排架・整架、図書の修理、行事会場の設営、レファレンス対応等の図書館業務の体験だけでなく、施設管理や図書館システム運営等、職
					市内の都立高等学校との連携	都立高校の生徒から情報収集した、図書館への要望を取り入れた行事等を引き続き検討していく。	
					高校生対象の図書館行事開催	市内の都立高校に訪問した際に高校生から要望のあった体験型の行事「高校生の『仕事体験講座』」を開催した。参加：4名	
					ティーンズコーナーの充実 ・別置・展示の工夫	・高校生の関心に沿ったテーマの本を収集した展示コーナーを設置し、定着させた。	

					<ul style="list-style-type: none"> ・中学生・高校生によるティーンズ向け図書の選書 ・中学生・高校生によるPOPの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の「職場体験」の中で、図書館職員指導のもと自分たちの好きな本のPOPを作成してもらい、ティーンズコーナーに対象の本と一緒に展示した。 	業としての観点から図書館の様々な仕事を紹介した。
7	特別な支援を必要とする子どもへの支援	図書館	検討	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の図書の利用が困難な子どもに向けた図書を収集し、読書支援を実施 ・障がい等により図書館に来館できない子どもに対しては、施設等に向いておはなし会を開催するなどの地域への出張サービス（アウトリーチ）を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の障害者週間の時期に合わせ、様々なハンディキャップサービスに関わる図書館資料を展示するとともに、子ども向けの絵本のマルチメディアデジ図書を視聴できるようなコーナーを設置した。 ・市内の特別支援学級のある中学校及び特別支援学校に対し、マルチメディアデジ図書や布の絵本、LLブック等の紹介を行った。 	様々な種類の図書を紹介することにより活字の読書が困難な子どもたちが自分に合った読書方法を知る機会を作り、読書支援を行うことができた。
8	ホームページの充実	図書館	検討	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けのホームページの充実 	児童サービスに係るページにスムーズに進めるようトップページにアイコンを追加するなど、わかりやすい表示に努めた。	児童サービスに関わるページのレイアウトについても、子どもがわかりやすく楽しめるものへと検討が必要である。

※継続（計画当初、計画最終年度）：第2次計画の成果を踏まえ、継続的に推進していく取組

※継続（計画当初）→充実（計画最終年度）：第2次計画に引き続き継続し、さらに新たな取組を実施、充実を図る。

※検討（計画当初）→実施（計画最終年度）：第3次計画において新たに検討し実施する取組

3 その他

	施策項目	所管課	計画当初(※)	計画最終年度(※)	具体的な取組	平成29年度実績	事業実績に対する評価等
1	啓発・広報	図書館	継続	充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども読書の日」等における啓発事業の実施 ・図書館行事の広報 ・小学校・中学校・高等学校を通じたPR 	<p>4月23日の「子ども読書の日」に因んで4月1日から5月17日までを「こだいら子ども読書月間」とし、全館で「前年度のおはなし会で読み聞かせをした絵本」の展示を行った他、各館で布の遊具・絵本の展示やおはなし会等を開催した。</p> <p>図書館内だけでなく学校や保育園等にもチラシやポスター掲示を依頼するなど、子どもたちのいる様々な施設に対し、広報の協力を求めた。</p> <p>小学校・中学校については、司書教諭等連絡協議会において年度初めに年間の図書館行事のPRを行ったり、学校の掲示板</p>	<p>「こだいら子ども読書月間」は、全館における取組としていることから、市内幅広く絵本のおもしろさを伝えることができた。</p> <p>広報については、ただ掲示するだけでなく、子どもたちの目に触れるような工夫が必要である。小・中学生に対しては、保護者に向けたPRのほうが効果的と考えられ、学校や保育園、幼稚園等を通じて情報提供していく。高校生に対しては、学校における掲示だけでなく同世代の居場所</p>

						にポスターの掲示を依頼するなど学校側に協力を求めた。	をよく研究して情報が届けられるよう工夫する必要がある。
2	計画の推進と評価	図書館	検討	実施	・関係各課による、それぞれの分野における子どもの読書活動の推進事業の実施、読書環境の整備・充実	関係各課が委員として構成される「小平市子ども読書活動推進計画検討委員会」を開催した。委員会では、進捗状況の点検・評価を行った。	それぞれの分野における状況把握ができた。

※継続（計画当初、計画最終年度）：第2次計画の成果を踏まえ、継続的に推進していく取組

※継続（計画当初）→充実（計画最終年度）：第2次計画に引き続き継続し、さらに新たな取組を実施、充実を図る。

※検討（計画当初）→実施（計画最終年度）：第3次計画において新たに検討し実施する取組

第 3 次 小 平 市 子 ども 読 書 活 動 推 進 計 画
【平成 29 年 度 進 捗 状 況】

発 行 平成 30 年 9 月
編集・発行 小平市中央図書館
小平市小川町 2 丁目 1325 番地
電話 042 - 345 - 1246 (代表)
電子メール tosyokan@city.kodaira.lg.jp